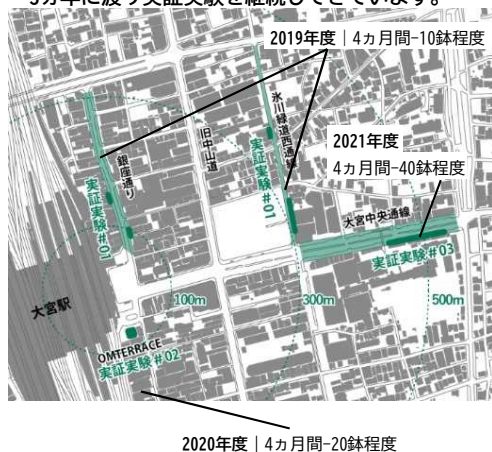


## OMIYA STREET PLANTS PROJECT



## 取組の位置

ストリートプランツは2019～2021年度現在まで3か年に渡り実証実験を継続してきています。



2020年度 | 4ヵ月間・20鉢程度

## 地域課題・目的

## 【地域課題】

- 滞在空間の不足 | 駅東口500m歩行圏は、約5000～30000人の歩行者交通量を有する商業地だが、狭隘な歩道空間が多く人が憩える滞在空間が少ない。
- 維持管理の継続 | 行政の植栽維持管理の他にまちづくり団体等により実施される地区もあるが高齢化やボランティアによる継続の難しさが生じている。
- 地域産業の支援 | 地域産業である植木苗木の生産者は、かつては植木市などを通じてまちづくりに関わる機会があったが、現在の街路空間に特色ある地域産業の関わりは感じられない。

## 【目的】

大宮駅東口周辺では今後大規模な事業が複数見込まれ、氷川参道等を特色する駅周辺地域の緑豊かな沿道空間形成に向けて、維持管理の継続性を含めた緑化促進の仕組みが求められる。公共整備による街路樹や植栽帯のみならず、公共空間における協賛/販売が可能な街路植栽の仕組みを導入することで、公民連携による持続可能な緑化空間マネジメントの体制を確立することを目的としている。



## 取組内容

## 流通型都市緑化※ “ストリートプランツ” による公共空間の活性化

※ 流通型都市緑化：パブリックスペースで協賛/販売を行い、一定期間で生産圃場と都市空間を循環する植栽

- 街路沿道一体の緑化滞在空間の運用
  - ・3～6ヵ月間の道路占用・道路使用許可の取得による植栽・什器の設置
  - ・沿道オーナー・テナント等による植栽の維持管理(水遣り・清掃)
- 街路植栽への協賛/販売の仕組み
  - ・都市再生推進法人による公共空間での収益事業(協賛/販売)
  - ・植栽に掲出したQRコードからアクセスするクラウドファンディング

- 地域の植木生産者との連携
  - ・大宮近郊埼玉県内の植木生産者が街路上の植栽を提供
  - ・3～6ヵ月程度の設置した植栽は、生産圃場でメンテナンスを行う



沿道オーナーによる維持管理の様子



QRコードが掲出されている街路植栽



地域の生産圃場での植栽選定の様子

## 取組効果

## まちづくり資金の還元

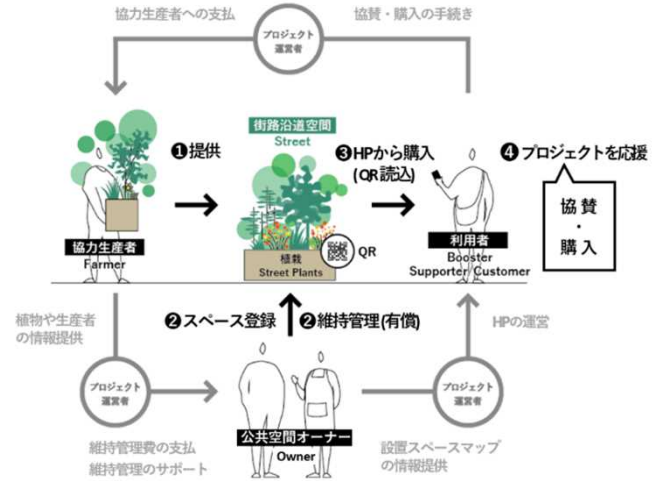
- ストリートプランツの協賛・購入による維持管理費等の捻出
  - ・2020.3～2021.9で3回の実証実験を実施しており、延べ設置期間12ヵ月、設置個数：65個、協賛/購入を得た個数：22個、収入：約37万円。収入金の還元の内1/3(約7万円)ずつを協力生産者・維持管理者・プロジェクト運営者へ還元。
- 滞在行动の創出
  - ・実施期間中の昼食時間帯の3時間で歩行者通行量648人/3hで延べ87分間の滞在行动(飲食・休憩等)が見受けられた。
- 街路空間の緑視率等の向上
  - ・対象街路平均13.4%の緑視率に対して、実施区間で34.4%の緑視率を実現。
  - ・人の滞在空間に近いアイレベル下方の緑の割合を街路平均の2倍以上に増加。

# 工夫した点

## 街路植栽の収益化による緑化マネジメントの仕組み

街路植栽に対する協賛や街路植栽の購入ができる仕組みを運用し、協賛/購入による収益を維持管理費等に充当する。※公共空間での収益事業は都市再生推進法人による実施

- 1 植栽生産者が街路沿道空間に設置される植栽を提供
  - 2 沿道オーナー/テナントが設置場所を提供し、水遣り/清掃等の維持管理を担当（道路等の公共空間や軒先等の民有地など）
  - 3 緑化滞在空間の利用者が、植栽に掲出されたQRコードを読み込み
  - 4 クラウドファンディングから“ストリートプランツ”に対して協賛等を行う
- ※ プロジェクトの運営者は協賛等の手続きや生産者への支払い、生産者と連携して維持管理者に対する維持管理方法の情報提供等を行う
- ※ 協賛等による資金は、1/3：生産者へ、1/3：維持管理者へ、1/3：まちづくり協力金として還元される



## 街路と沿道が一体となって運用される緑化滞在空間

- 沿道店舗【オープンテラス】+緑化滞在空間【ストリートプランツ】の一体活用
  - ・沿道店舗等の利用者が店舗前の滞在空間を利用できるようにするため、沿道の用途や使われ方に応じてソーシャルディスタンスが確保できる植栽配置や、ベンチカウンター等の滞在用什器の配置を行っている
- 維持管理を含む緑化促進に参画すると事業に還元される空間構成
  - ・テイクアウト等の店舗利用形態と維持管理できる植栽鉢数を考慮した空間計画

## 効果検証に基づいた展開拡張の検討

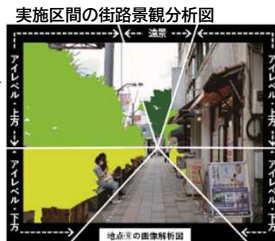
小規模な緑化滞在空間の測地的な効果検証を行い、地域全体での展開の根拠を蓄積（行動分析調査/街路景観分析/パーキングレーン稼働率調査/環境測定調査/ヒアリング調査）

- 動画解析による行動分析調査（UDC078との共同研究）
  - ・人流測定カメラによる撮影動画をディープラーニングを用いて解析
  - ・緑化滞在空間において、実施期間中の昼食時間帯（11:00-14:00）の3時間で歩行者通行量648人/3hで延べ87分間の滞在行動（飲食・休憩等）が見受けられた。
- 街路景観分析（緑視率及び緑の構成要素の分析）（芝浦工業大学との共同研究）



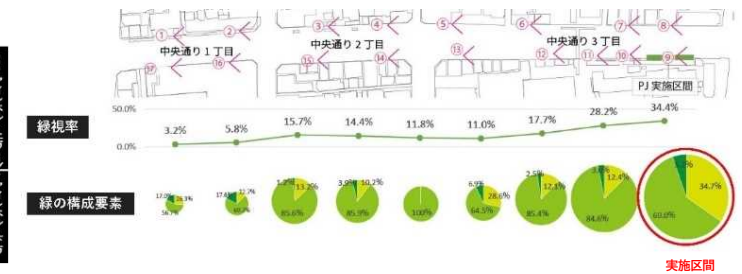
●街路景観分析（緑視率及び緑の構成要素の分析）（芝浦工業大学との共同研究）

- ・緑視率は、対象街路平均13.4%に対して、実施区間で34.4%の緑視率を実現できた。
- ・緑の構成要素は、対象街路全体の平均値と比較して、実施区間では人の滞在空間に近いアイレベル下方の緑の割合を2倍以上増加させることができた。



[街路全体平均]  
アイレベル下方：アイレベル上方：遠景=16.5%：80.5%：3.5%

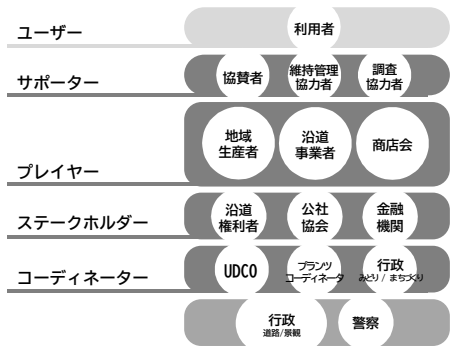
[実施区間]  
アイレベル下方：アイレベル上方：遠景=34.7%：60.0%：5.2%



## 今後期待される効果

### 緑化滞在空間を媒介とした地域コミュニティの強化

- 地域の多様な関係者とともに緑化滞在空間の運営体制を構築
- ・エリアプラットフォームの設立を検討しており、公民連携により都市緑化を進める体制構築を図っている。
- ・沿道事業への効果や沿道利用者の快適性向上など、沿道事業者や商店会のニーズに即し効果が見える滞在空間創出の取組により、沿道の協力関係を引き出す。



### 地域産業が表出する街路景観の創出

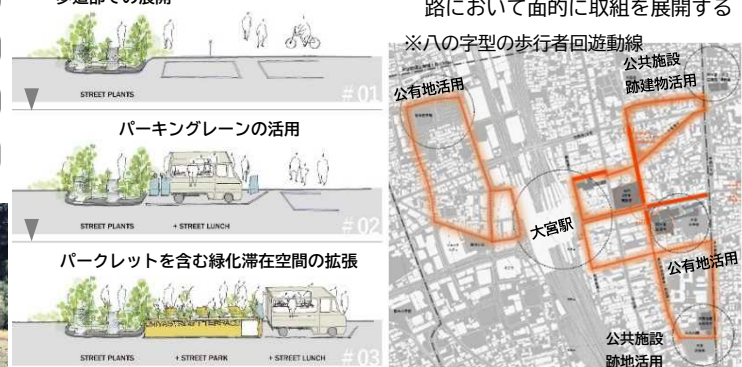
- 地域で生産された植栽で街路景観を形成する
- ・通常の街路では見られない付加価値のある植栽が、滞在空間に設置され、氷川参道に代表される地域資源を活かした地域らしい街路景観の創出を図る。



## 今後の展望

### 道路空間の緑化滞在空間モデルをエリア全体へ展開

- 街路上での緑化滞在空間の拡張
  - ・実証実験により歩道部での緑化や隣接パーキングレーンでの実績をつくり、段階的に緑化滞在空間を拡張
- 重点街路空間「インフィニティストリート※」での面的な取組拡張
  - ・駅前や周辺公共施設などまちづくりが進捗するエリアを結ぶ重点街路において面的に取組を展開する



# WITH HARAJUKU 街の回遊を生み出し、魅力的なストリート文化を醸成する



かつての源氏山の地形を再現する土地利用と地域にふさわしい樹木に取り囲まれた屋外テラス



屋外テラスとパッサージュ

## 取組の位置



## 地域課題・目的

**【地域課題】** 当地域は「表参道」と「竹下通り」の2つのストリートが屈指の歩行者空間と最先端の文化を発信してきた。一方、各々のストリートをつなげる公共的ハブが不足し、少子高齢化やインバウンド増加、容積重視型の再開発が主流化する中で、この地域特有の街路空間の界索性やスケールを活かし、地域全体の回遊性を飛躍的に向上し、多様で奥行きのある街への進化が求められた。

**【目的】** 明治神宮と2つのストリートに囲まれた立地を活かし、自然と多様な都市的活動が融合する建築・グリーンインフラにより、原宿駅前の新たな公共的空間を創出するとともに、ストリート文化のインキュベーターという役割を担い、街を進化させる。

## 取組内容

- パッサージュ（施設を貫通する半屋外の立体的な歩廊空間）により、周辺街路と接続し、公共的な歩行ネットワークを形成した。かつて源氏山と呼ばれた原地形を想起させる段状の屋外テラスを設け、明治神宮や原宿の街の眺望点や憩いの場を創出した。
- ショップやコワーキングスペースなどのテナント入居者やホール運営者と計画・設計時から連携し、多様な活動やイベントのプログラムを受けとめる一体的なオープンスペースを生み出した。

## 取組効果

- 光・風が通り抜けるパッサージュと屋外テラスの連続した緑により、都市の中で自然を感じられる快適な回遊や休憩の場所と機会を創出した。
- 周辺街区との歩行ネットワークが形成され、周辺地域のストリートの来街者と施設の来訪者、集合住宅の居住者が同時に滞在し、利用されることで、集客や文化交流につながる相乗効果が生まれた。コロナ禍において、外部空間であるパッサージュ・屋外テラスを滞留やイベントの舞台として活用している。



パッサージュ（左：原宿駅側 右：竹下通り側）



屋外テラス



回遊と滞留がうまれる施設



フラワーマーケット



インスタレーション



コンサート

DJイベント

月見

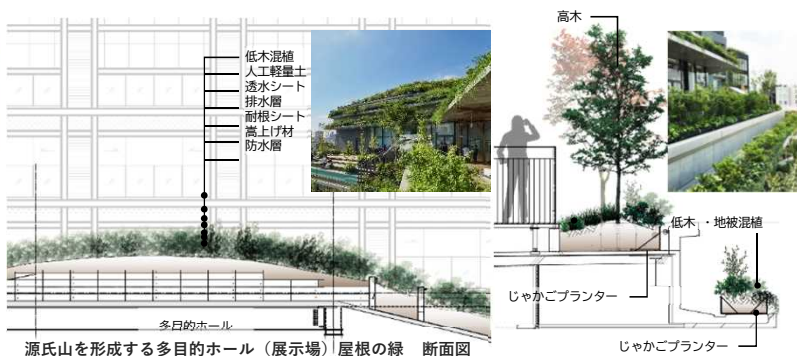
## 工夫した点

- 地域にふさわしい緑：植栽は、地域生態系を考慮しながら、四季折々の魅力となる様々な落葉広葉樹を各階の屋外テラスの道行きに沿って配置した。
- 多様な活動が表れる屋外テラス：屋外テラスはテナントに面し、イベントスペースの用途も兼ねている。季節・時間に応じた多様な活動が展開する。



地域にふさわしい植物による連続した立体的な緑

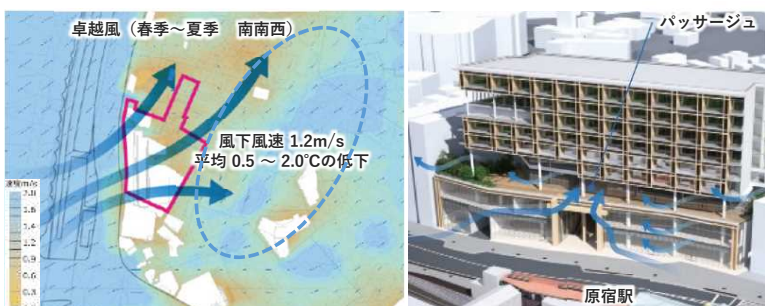
- 地形の骨格をつくる屋根緑化とマウンド：段状の地形の頂部となるホールの屋根をマウンド状に緑化し、かつての源氏山の風景を再現した。
- 立体的に連続する庇の緑：段状にセットバックしたテラスと庇に連続したプランター植栽を設け、山の緑の連続性と緑量を生み出した。



源氏山を形成する多目的ホール（展示場）屋根の緑 断面図

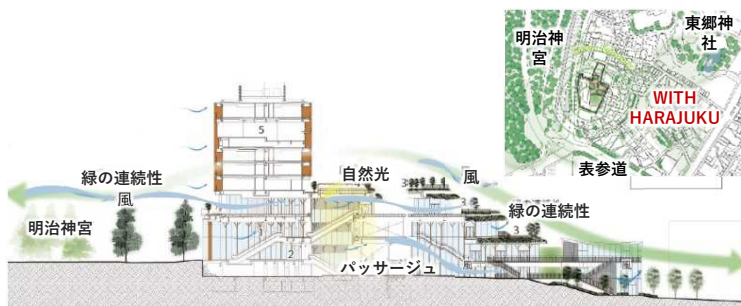
## 今後期待される効果

- 明治神宮の杜から冷涼な空気を計画地に取り込む計画としている。シュミレーションにより、明治神宮からの卓越風がパサージュや屋外テラスの緑を通過し、周辺住宅街区へと抜けることで東側街区の気温が0.5~2.0℃低くなる結果となった。テラスの樹木の成長とともに、庇や屋上を緑が包み込み、建物から発する輻射熱を抑制し、近隣街区にもヒートアイランド効果の抑制につながることで期待される。



風の通り抜けによる暑熱環境緩和のシュミレーション（左）イメージ（右）

- 東側の低層部は、裏原宿のスケールに合わせた階段状の屋外テラスをセットバックさせ周辺街区と連続する緑を創出した。開発で失われてきた街のの緑を取り戻し、明治神宮から裏原宿側の東郷神社へと連なる緑が形成される。また、明治神宮の杜の構成種と里山の樹種で構成された多様な植栽により、鳥類や生き物の生態系ネットワークの形成に資する緑となることが期待される。



裏原宿側の東郷神社へと連なる緑のネットワーク

## 今後の展望

- 本事業は、ビル単体の一過性のプロジェクトでなく、街全体を未来に向けて再生していく持続的な再開発の一端である。近傍には当事業者が30年以上運営する商業施設もあり、地域の町会や商店会とも連携しながら、「WITH HARAJUKU」を核にさらに周辺の裏原宿側の街区へと開発を進め、さらなる人の流れや緑のネットワークを生み出し、街の価値を高める取り組みを継続的に進めている。



当施設を起点に裏原宿側へと波及する人の流れ